

里地里山の保全・活用の取組における課題と技術的方策等

分類	多様な主体の連携・協働
手法名	地域と連携した体験型研修会による情報の蓄積と共有化
主体	環境省やんばる野生生物保護センター
背景(地域の課題)	<p>沖縄県やんばる地域は、世界的にも希少な亜熱帯の照葉樹林を主体とした森林。地域固有の生き物も含め、生物多様性が高い地域である。一方で外来種や開発による影響、人が係わらなくなったことによる影響が懸念される中、保全のための枠組みが求められている。</p>
手法／方策の詳細	<p>(1) 地元への発信と利活用の機能を持たせた展示スペースの創出 地元公募の愛称をつけ、外部の来訪者だけではなく、地元住民への発信や利用を想定した展示スペースをリニューアルしている(図1)。 学校などの授業利用や地域団体の活動展示など機能の充実化することで利用向上を図るとともに、やんばるの森に対する地元の関心を惹起している。(図2)</p> <p>(2) 地域内連携の場づくりー「3村たまたま箱」の取り組みー 地域内の意識向上のため、やんばる3村の相互交流、体験研修を設定し、地元の各種団体と共に取り組んでいる(図3)。 活動と合わせて、地域内の情報交流と連携が促進されるとともに、地元だからこそ把握しているデータや情報の蓄積を図られている(図4)。</p> <p>(3) 国立公園・世界遺産を視野に入れた活動展開 地域に根差した活動と共に、地域外の取り組みとの交流を深め、意識向上を図り、より広域的な枠組みも位置付けを行っていく。地元の意識作りと共に、計画づくりと活動づくりを行うことで、国立公園・世界遺産指定への道筋を模索している。</p>
手法・技術的視点	<p>・地域内の学習活動を通じたデータの蓄積や計画策定への道筋づくり 環境省やんばる野生生物保護センターと周辺3村地域の連携による体験型研修を実施することで、地域内情報の共有とデータの蓄積を図ることが期待される。また活動成果を今後の施策と活動計画づくりに活用していくプロセスが示されている。 地域内の学習活動が、地域内の情報交流や連携を促進させるだけでなく、里地里山特有の自然と関係する民俗学的な知見やデータの蓄積にも貢献し、より広域の計画策定にもつなげる点で着目される事例となっている。</p>

<p>実行プロセス・運営体制のイメージ</p>	<p>やんばる保全の新たな枠組み作りに向けた展開</p> <pre> graph TD A[施設リニューアルを契機にした展示等の刷新] --> B[施設における学校や地元団体の利用促進] B --> C[「3村たまたばこ講座」の開催] C --> D[地域情報の収集・蓄積と普及啓発] D --> E[新たな枠組み作りへ(国立公園・世界遺産など)] E --> F[普及啓発活動「3村たまたばこ講座」の運営要素] F --> G[3村たまたばこ箱講座] H[地元3村が企画・運営] --> G I[体験型プログラムと地域資源の再発見] --> G J[センターにおける座学による研修講座] --> G </pre> <p>普及啓発活動「3村たまたばこ講座」の運営要素</p> <p>図1</p> <p>図2</p> <p>図3</p> <p>図4</p>
<p>図・写真資料</p>	<p>図1</p> <p>2010年4月 展示リニューアル</p> <ul style="list-style-type: none"> リニューアル後 <ul style="list-style-type: none"> 文化と自然のつながりを、ちゃんと展示で伝えられたら面白い 地域の人も生き物のことを知りたい時に来られる情報センターに 地域に開放されたコーナーを作ってみては <p>図2</p> <p>改修後の利用のようす</p> <ul style="list-style-type: none"> 初めての夏休み企画)写真展の開催 館内でのレクチャー、研修対応など 地域の学校への読み聞かせ、出前授業など 学校の学習成果の企画展の試み <p>地域の方々や学校などに活用していただける機会をもっと広げていけるように</p> <p>図3</p> <p>3村たまたばこ箱講座</p> <ul style="list-style-type: none"> 地元3村の皆さんから見ても、身近で知らないところに実は魅力があることに気づく 3村をフィールドとした体験型のプログラムを入れて、楽しく展開する <p>【H21】</p> <p>ステージ1 東村・豊佐次のマングロープカヌー体験&自然観察 ステージ2 大宜味村・ター滝沢登り体験 ステージ3 国頭村・与那の森・ネイチャーゲーム</p> <p>図4</p> <p>3村たまたばこ箱講座</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の魅力や資源を、次の世代に残すためにはどうしたらよいか？を考える <p>【H22】</p> <p>ステージ4 産学・中琉球はえらい！ ステージ5 大宜味村・石灰岩の森を歩く ステージ6 国頭村・比地集落と大海とのつながり ステージ7 粟村・ノグチグラのすむ森 ステージ8 産学・やんばるの生物多様性とは？ →2/19(土) 18時〜ウフギー自然館</p>
<p>参考資料</p>	<p>里なび研修会in沖縄パワーポイント資料(加藤麻理子氏)</p>